

ムウエテ・ムルアカさん

(国際政治評論家)

日本人は親不孝ではないですか？

日本人は焼け野原からどうやって国を再建したのか？それがムルアカさんの日本への興味の原点だ。そしていま、日本人がアフリカに持つ先入観を壊して、本当のアフリカの姿を知ってほしいと活動している。

侍と電化製品の国へ

——来日してから三十年以上が経ったそうですね。来日のきっかけから教えてください。

私は子供のころから不思議に思っていることがありました。なんで世の中には、貧乏な家に生まれる人と豊かな家に生まれる人がいるんだろう。なんでみんな同じじゃないんだろう、と。

私が生まれたコンゴ民主共和国——旧ザイールでは貧しい家に生まれた子供はいくらがんばっても貧しい

まま。どうすれば、貧乏な人も普通に食べていけるのか。そんなことを考えていました。だから日本で勉強したいと思ったんです。

——どういうことでしょうか？

日本は第二次世界大戦で二発の核爆弾を落とされて焼け野原になって何もかも失いました。敗戦直後、豊かな自然と資源があつて平和だった旧ザイールより貧しかったはず。

ところが経済発展を遂げたのはすべてを失ったはずの日本でした。日本人はどうやって国を再建したのか。マイナスから国を建て直した日本に私も何か学べるの

ではないか……。そんなことを考えているうちいつの間にか日本に取りつかれていました。

また小学生のころから空手を習っていたのも大きかった。私が通う小学校に貧しい子供に暴力を振るう悪い連中がいたんです。私はいじめられっ子を助けよう

としましたが相手は六、七人。そのころ私が習っていたボクシングでは多勢に無勢でかなわなかった。そんなとき空手家が活躍する映画を観ました。これだと思った。ボクシングのように手だけでなく、足も使う。これなら一人でも大勢を相手にケンカできるんじゃないか、と。

でも空手が日本の格闘技で「カラテ」という言葉が日本語とは知らなかった。それだけではなく「マエゲリ」や「カカトゲリ」が「前」や「踵」。「蹴り」という日本語からきているなんて思いもしなかった。

「カラテ」が空手だと分かったのは、国立イナザ・イスタ大学の電子通信工学科を卒業して、ザイールの国营放送局に入社して、日本について学ぶようになってからだったんです。

——それまで日本にどんなイメージを持っていたんですか？

日本に原子爆弾が落とされたり、高性能の電化製品を造ったりしているのは知っていましたが、一方でまだチョンマゲをした侍が駕籠に乗っているのではないかと漠然と思っていたほどでした。

——侍と電化製品の国ですか(笑)。



●むうえて・むるあか 1961年生まれ。国立イナザ・イスタ大学電子通信工学科卒。85年来日。93年、東京電機大学電子工学科を卒業後、99年工学博士号を取得。千葉科学大学教授、神奈川工科大学特任教授。趣味は料理・農作業・武道。